

ものづくり技術
一般型
設備投資

3次元ルーターの導入により 木製建具、家具の新しい需要を拓く 有限会社高橋木工製作所



飛躍的に加工精度を高めた3次元 NCルーター



立体的な加工表現が
木工製品の魅力を高める



3D加工が可能になったおかげで新感覚の商品開発にも挑戦できる体制が整った



特許取得製品『座・楽』の製作にも新装置が活躍

01 企業情報 profile

会社名 有限会社高橋木工製作所
代表者 代表取締役会長 高橋 悟
取締役社長 高橋 秀樹
所在地 〒870-0108 大分県大分市大字三佐2267-1
TEL.097-522-3611 FAX.097-522-0338
URL <http://www.mokkou-ss.com>
E-Mail mokkou-ss@palette.plala.or.jp
(担当 高橋 秀樹)
事業内容 家具・建具製作及び取付、既存家具・建具の修繕
資本金 300万円
設立 平成元年5月18日
社員数 5名

02 概要 outline

「指物大工」と呼ばれる職人達が活躍する木製家具業界において、NCルーターを導入し従来にない三次元形状の木製品を生産する。これにより個々の顧客毎にカスタマイズした建具、家具の提供を実現する。

03 背景・経緯 background

伝統ある指物技法が 現代人に共感を得られるための試み

「指物」とは、板材を金釘を使わず「ほぞ」と呼ばれる凹凸を作って精巧に組み合わせる技法を用いた木製品の総称。家具、建具、調度品等の木工芸分野では現在も多用されている日本の伝統技法であり、美的面や耐久面で優れた工芸品として人気が高い。

指物を手がける職人は「指物大工」「指物師」とも呼ばれ、新築住宅や増築、リフォーム時の造りつけの木製家具や建具の製作は、現在でも彼らの存在なくして成り立たない。

木製家具業界に身を置く有限会社高橋木工製作所は、伝統美あふれる指物家具に、あらたな息吹を与えられないかと、日々研究を重ねている木製家具・建具製造業者である。職人の経験やカンに頼るだけでなく、機械化、NC化も併用・融合した「新しい時代の指物大工事業」を目指し、その技術を磨いてきたと自負する。

一方で、オーダーメイドの造りつけ家具といえども、住宅における価格決定権はほとんど住宅メーカーが握っている。下請けではユーザーへ思い通りの提案が出来にくいケースも多く、「独自の技術を注いだオンリーワンの製品があれば、その流れは変わるのではないか」と、同社は考える。

超低金利時代が到来し、新築住宅やリフォーム市場が活況を呈しているが、少子高齢化時代が目前に差し迫っていることを考えると、木工業界全体としても早期に対応策を考えなければならない状況といえよう。

04 事業内容 details

3次元加工を取り入れた 新感覚の指物家具を

高橋木工製作所は、ものづくり補助金を活用して NCルーターを導入し、従来にない3次元形状の木製品を生産する事業に乗り出した。2次元加工を中心に製造を手がけてきた同社であるが、3次元加工となると時間も精度も含めて限界があった。

指物家具といえば基本的に四角の板を組み合わせた箱ものがメインである。同社では平成10年に2次元 NCルーターマシンを導入して円形加工が可能となったが、平面加工だけでは限界が生じ、他

社との差別化も難しい。

3Dプリンターもが登場してきている今、NC3次元ルーターを導入して個々のオーダーに応じた家具や建具の提供をすべく、同社は新しい方向に向けて舵を切った。

05 成果 achievement

新しい技術をフル活用して 様々な場面でプレゼンテーション

3次元ルーターの導入により、加工精度は飛躍的に向上した。3次元加工を用いることでバリエーションあふれる設計に対応できるため、場合によっては文字や絵、イラストの掘り込み、浮かし彫りなど、自在な加工が施すことが出来るようになった。完成品を目の前にした既存取引先から高く評価されることも多く、今後の新規顧客開拓において役に立ちそうだ。

高橋木工製作所は NPO法人日本総合デザインサポート協会が主催する「家具デザインコンテスト」に協力している。一般公募により全国から応募してきた作品の中から受賞作品を実際の製品として具現化するのだが、ここでも3次元ルーターが活躍しているのは言うまでもない。

06 展望 future

高い志を掲げ 業界の未来のために汗を流す

高橋木工製作所では特許製品も開発しており、開閉構造を備えた木製の椅子『座・楽(ざらく)』は壁があればどこでも取り付けられるためスペースの有効活用に優れた逸品。さらには浴槽に固定して、高齢者の入浴補助にも機能を発揮する。

経済産業省『がんばる中小企業・小規模事業者300社』に選ばれた同社。業界の未来も考えながらも汗をかく“がんばり”に、心からエールを贈りたい。

まとめ point

“指物文化”の継承と発展に光明を見出すための設備導入。時代を見据えたチャレンジの成就に期待。